



授業づくり講座 in 香南市立野市中学校

他教科のレポートも掲載中！
HPをご参照ください。
発行:令和3年12月
東部教育事務所



単元: 第1学年 「武家政権の成長と東アジア」 <学習指導要領解説 P98～P103>

◆本単元終了時の目指す生徒の姿: 元寇がきっかけで起こった鎌倉幕府の滅亡とその後の南北朝の動乱、室町幕府の成立と各地で行われた貿易、そして応仁の乱によって、都を中心とした支配が崩れ、各地で力を持ったものたちが独自の支配方法で勢力を広げていったことを社会的な見方・考え方をを用いて思考・判断し、自らの主張(考え)を、事実・根拠を明確にして表現しようとする姿。



- 課題の追究・解決を通して資質・能力を育成する単元づくり ～指導と評価の一体化～
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる教材分析力の向上 ～単元を貫く問いと各時間の問いのつながり～

10月15日(金) 教材研究会

野市中学校の提案

中世は、武士だけでなく民衆が力を持ち始めた時代と捉えた。単元を通してあらゆる身分の視点に立ち、それぞれの立場から時代を生き抜くための選択を行うことで、中世社会の様子を多面的・多角的に捉えさせたい。また、時代が大きく変化していく様子を、事象同士を因果関係で結び付けながら捉えさせることで、中世の日本を大観させたい。

単元を貫く問い: 時代を生き抜くためのあなたの選択は?

授業者: 田内 南央 教諭

第1時	海を越えて迫る元軍	問い: 御家人たちの不満にあなたならどう対応する? 今後どんな世の中になるだろう? (パフォーマンス課題と単元を貫く問いの提示)
第2時	南北朝の内乱と新たな幕府	
第3時	東アジアの交易と倭寇	問い: 利益を得るためにあなたならどのような方法を行う?
第4時	技術の発達と様々な職業	問い: 町が栄えた秘訣とは何だろうか?
第5時	団結して自立する民衆	問い: 身を守るために民衆は何を行うのだろうか?
本時 第6時	全国に広がる下剋上	問い: 長宗我部氏の立場なら生き残るためにどのようなことをする?
第7時	庶民に広がる室町文化	問い: 文化を絶やさないために、どんなことをしたのだろうか?
第8時	パフォーマンス課題	問い: あなたはテレビ番組「その時、歴史が動く」の番組担当プロデューサーとしてどの場面が「歴史が動いた瞬間か? 誰が(身分)動かしたのか?」について作成することにしました。あなたの案を考えましょう。

〈本時の社会的な見方・考え方〉
変化・差異・背景



研究協議より

- ・単元を通して「歴史が動いた瞬間」を意識させるように、「パフォーマンス課題」を「単元を貫く問い」にしてはどうだろうか。
- ・単元を通してそれぞれの立場ごとに生き抜く選択をさせるので、時代背景を正確に掴ませる手立てが必要になるのではないかな。
- ・本時の「めあて」と「まとめ」の整合性について見直す必要があるのではないかな。

11月17日(水) 授業研究会

野市中学校の提案

教材研究会を受けて、単元を貫く問いと各時間の問いのつながりを見直した。パフォーマンス課題とのつながりを重視し、各時間において当時の人々の立場で選択させる問いに修正した。また、本時の授業については、目的・場面・状況を明確にすることを意識した。当時全国各地で見られた顕著な状況を自国の状況として示し、複数の資料を根拠として関連付け、どのような分国法を採用するのかを選択させるようにした。

単元を貫く問い: 新たな歴史の1ページをつくっていくあなたの選択は?
～当時の人々の立場に立って選択・判断し、中世社会の変化を基に歴史が動いた瞬間を主張しよう～

第1時	海を越えて迫る元軍	問い: 御家人たちの不満にあなたならどう対応する? 今後どんな世の中になるだろう? (パフォーマンス課題と単元を貫く問いの提示)	本時の板書
第2時	南北朝の内乱と新たな幕府		
第3時	東アジアの交易と倭寇	問い: 利益を得るためにあなたならどのような方法を行う?	
第4時	技術の発達と様々な職業	問い: 町を栄えさせるためにあなたならどうする?	
第5時	団結して自立する民衆	問い: 身を守るためにあなたなら何を行うのだろうか?	
本時 第6時	全国に広がる下剋上	問い: 領地を守るためにあなたならどのような分国法を採用する?	
第7時	庶民に広がる室町文化	問い: 文化を残すためにあなたならどうする?	
第8時	パフォーマンス課題	問い: あなたはテレビ番組「その時、歴史が動く」の番組担当プロデューサーとしてどの場面が「歴史が動いた瞬間か? 誰が(身分)動かしたのか?」について作成することにしました。あなたの案を考えましょう。	

研究協議より

- ・資料を活用せざるを得ない問いの工夫があった。根拠として関連付けるための資料が多く、生徒は苦勞していたが、その苦勞が大事だと思う。
- ・選択をさせるためには、当時の社会的背景を十分に掴ませておくことが必要であると感じた。

愛媛大学教育学部 井上 昌善 准教授 の講話より



【社会科授業の目標に関する理論】

社会科の目標原理には、「社会を知る、わかる、つくる(考える)」という3つのレベルがある。

<第1段階> 社会を知る、気付く段階
→ 問い=「どのような」

<第2段階> 社会が分かる、推論する段階
→ 問い=「なぜ」

<第3段階> 社会をつくる段階①
社会への関わり方を選択・判断する段階、社会をつくる段階
→ 問い=「今後、どうすればよいのだろうか」

<第4段階> 社会をつくる段階②=行動化
解決策を社会に向けて提案・実行したりする段階
→ 問い=「今後、私たちにできることは何だろうか」

【各分野の中核となる問い】

例えば、「公害の防止や環境保全の異議の学習」を各分野で実施する。

<地理的分野の学習で中核となる問い>
・公害や環境問題はどこで生じているのか? なぜか?

<歴史的分野の学習で中核となる問い>
・公害や環境問題はいつから生じたのか? なぜか?

<公民的分野の学習で中核となる問い>
・公害や環境問題を解決するためにどのような取組がされているのか? どうすべきか?

【今回の授業モデルについて】

歴史の授業においては、時代の特徴や特色、変化を理解させることができるかが勝負になる。本時の授業では、当時の大名が行ったことを理解させることがねらいとなっていたので、最終的に形成したい歴史認識は、戦国大名によって定められた分国法の歴史的意義であることを捉えておきたい。



- 参加者の主体的・対話的で深い学びにつながる講座の充実

【リフレクションシートより】

- ・フィードバックを充実させるためには、教材研究が重要であることを改めて感じた。
- ・生徒に身に付けさせたい力をより具体的に描き、単元をつくっていきたい。
- ・学習指導要領をしっかりと読み込んで理解していきたい。

〈野市中学校の振り返り〉

単元を通して見方・考え方を明示的に指導し、「使える力」を生徒に身に付けさせていくという考え方を教師が身に付けることができた。事実を基に当時の人々の思いに迫り、選択・判断・表現をすることで、単元を通して生徒の成長を実感できた。